

モンゴル国ゴビ砂漠での 「Tsetsii Wind Farm」 運転開始について

～モンゴルの持続的な経済発展に貢献～

ソフトバンクグループのSB エナジー株式会社（代表取締役社長：三輪 茂基、以下「SB エナジー（エスビー エナジー）」とモンゴルのNewcom LLC（本社：モンゴル国ウランバートル市、Chairman & CEO：Enkhbold Nyamjav（ナムジャブ・エンフボルド）、以下「Newcom」）による合弁会社である Clean Energy Asia LLC（本社：モンゴル国ウランバートル市、代表取締役社長：Orchlon Enkhtsetseg（エンフツェツェグ・オルチロン）、以下「Clean Energy Asia」）は本日、モンゴル国ゴビ砂漠での出力規模5万kW（50MW）の風力発電所プロジェクト（以下「本プロジェクト」）「Tsetsii Wind Farm（ツェツィーウインドファーム）」の営業運転を開始します。

「Tsetsii Wind Farm」は、モンゴル国内の電力需給逼迫の緩和への貢献および自然エネルギーの促進と同国の持続的な経済発展および気候変動の緩和に寄与することを目的として、Clean Energy Asia が発電事業者となり建設した風力発電所です。本プロジェクトで発電する電力はモンゴル国内向けの送電網に接続し、モンゴルでの国内消費を目的に供給します。

モンゴルでは国全体で113万kW（1,130MW）の電源設備容量が設置されていて、その電源構成^{※1}は石炭火力88%、ディーゼル6%、自然エネルギー6%、水力2%と自然エネルギーの割合が低くなっています。また、同国においては経済成長にともなう電力の需給逼迫が喫緊の課題であるとともに、気候変動の影響を受ける国としても8位^{※2}に位置付けられており、自然エネルギーなどの安心安全な電源の設置が必要とされる国の一つです。モンゴルでは2015年にエネルギーセクターの中長期目標・計画（2015 - 2030年）を定めた国家電力政策が国会で承認され、総発電容量に占める自然エネルギーの割合を2020年までに20%、2030年までに30%まで引き上げることを目標とし、国際金融機関やドナー国と協力してエネルギー分野の投資促進を行うこと、ゴビ地域の豊富な太陽光、風力資源を活用することなどが定められています。さらに、同国政府は温室効果ガスの排出削減にも積極的に取り組んでおり、2国間クレジット制度（Joint Crediting Mechanism：JCM）において、日本と最初に覚書の締結を行った国でもあります。

「Tsetsii Wind Farm」についても、本プロジェクト発足当初の事業性を調査する段階において、経済産業省によるサポートの下でJCM適用可能性調査を行いました。このような状況の中で、同国では自然エネルギーの普及促進を進めるべく、自然エネルギーを活用した発電所のニーズが高まっています。

※1 出典：モンゴル エネルギー省（2015年）

※2 出典：GERMANWATCH “Global Climate Risk Index 2014”

本プロジェクトは、JICAによる自然エネルギー分野では初の海外投融資によるドル建てプロジェクトファイナンス案件であり、SB エナジーおよびソフトバンクグループにとってはモンゴルでの初の発電事業です。

ソフトバンクグループ株式会社 代表取締役会長 兼 社長の孫 正義は以下のように述べています。

「2011年に発表したアジア・スーパー・グリッド構想をきっかけに、ソフトバンクグループによるモンゴルでの自然エネルギー開発の取り組みがスタートしました。本プロジェクトが運転開始を迎えたことで、ソフトバンクグループとしては日本、インドに加え、モンゴルでもアジア・スーパー・グリッド構想に基づく自然エネルギー事業の橋頭堡を築けたことを大変嬉しく思います」

SB エナジー代表取締役社長の三輪 茂基は以下のように述べています。

「本プロジェクトは、SB エナジーによるモンゴル国内での自然エネルギー普及およびアジア・スーパー・グリッド構想に基づいて行うモンゴルでの自然エネルギーの大規模開発に向けた第一歩です。SB エナジーが日本国内の自然エネルギー開発で得たノウハウと、パートナーである Newcom の協力により、われわれのモンゴルでの最初の成功事例を完成させることができました。本日、無事に運転開始を迎えられたことを、ファイナンシャルパートナーである欧州復興開発銀行 (EBRD)、JICA を含むすべての関係者の皆さまに心から感謝します。今後も SB エナジーは日本やモンゴルにおける自然エネルギー開発の知見を最大限活用しながら、グローバルに事業を推し進め、自然エネルギーの普及拡大と CO2 排出削減という課題の解決に向けて貢献していきます」

Newcom Chairman & CEO の Enkhbold Nyamjav は以下のように述べています。

「今回の Tsetsii Wind Farm の完成と 2013 年にモンゴルで初めて完成したサルヒットの風力発電所は、Newcom のモンゴルにおける先進技術のパイオニアとしてのビジョンを証明する成功事例です。われわれはモンゴルの自然エネルギー分野の発展をけん引するとともに、本プロジェクトを通じて、ソフトバンクグループとパートナーシップを結び、育ててきたことを誇りに思います。共同事業者である SB エナジー、ファイナンシャルパートナーである EBRD と JICA、モンゴル国政府、さらに本プロジェクトに尽力して下さったすべての方々から感謝申し上げます。みなさまの最大限の努力により、本プロジェクトは当初の予定よりも早く完工することができました。工事の最盛期には 400 名を越える作業員の方々に参加いただき、うち 95%の方々がモンゴル国民でした。このことは、モンゴルのプロフェッショナルが世界規模のプロジェクトを完遂するのに十分な能力と技能を有していることの明確な証です。われわれは、本プロジェクトの完成により、海外投資家のモンゴルへの投資に対する信頼が深まり、モンゴルという国が物事を完遂する国だと示す事例となったと確信しています。このように、われわれの仕事が大規模電力輸出事業へつながる道を切り拓き、アジア・スーパー・グリッドの実現により近づけたと確信し、より一層誇らしく思います」

SB エナジー、Newcom の両社は、今後もモンゴル国での自然エネルギー開発事業の発展と電力インフラシステムの向上に貢献していきます。

■ 「Tsetsii Wind Farm」 概要

所在地	モンゴル国ウムヌゴビ県ツォグトツェツィー郡
出力規模 (モジュール容量)	5 万 kW (50MW) : 2,000kW×25 基
年間予想発電量 (初年度)	約 2 億 kWh/年
運転開始日	2017 年 10 月 6 日 (金)

■ 「Tsetsii Wind Farm」 運転開始セレモニーでのテープカット



■ 「Tsetsii Wind Farm」



■ Clean Energy Asia LLC について

Clean Energy Asia LLC は 2012 年、Newcom LLC とソフトバンクグループで自然エネルギー事業を行う SB エナジー株式会社の合弁会社として設立されました。

■SB エナジー株式会社について

SB エナジーはソフトバンクグループ株式会社の 100%子会社であり、日本でも有数の発電量を持つ自然エネルギー事業者です。2017 年 10 月現在、大規模な太陽光発電や風力発電などの発電所を 34 カ所 40 万 8,500kW (408.5MW、日本の世帯数換算で約 12 万 8,180 世帯相当) の発電所を運営しており、自然エネルギーの普及と拡大を目指しています。

■Newcom LLC について

Newcom は国際的な専門知識と技術開発とともにモンゴル国でクリーンテクノロジーとインフラへの投資事業を行っています。Newcom Group はまた、情報通信、IT、金融、自然エネルギー、不動産、採鉱事業分野など、多岐に渡るポートフォリオを有しています。Newcom はウランバートル市から 70km の立地に出力規模 50MW のモンゴル最初の風力発電施設を運営するほか、政府公認で国際支援機関から権利を得た 450MW の熱電併給設備「#5」を建設中です。本社はモンゴル国ウランバートル市。詳しくはこちらをご覧ください。

www.newcom.mn

- SoftBank およびソフトバンクの名称、ロゴは、日本国およびその他の国におけるソフトバンクグループ株式会社の登録商標または商標です。
- その他、このプレスリリースに掲載されている会社名および製品・サービス名は各社の登録商標または商標です。